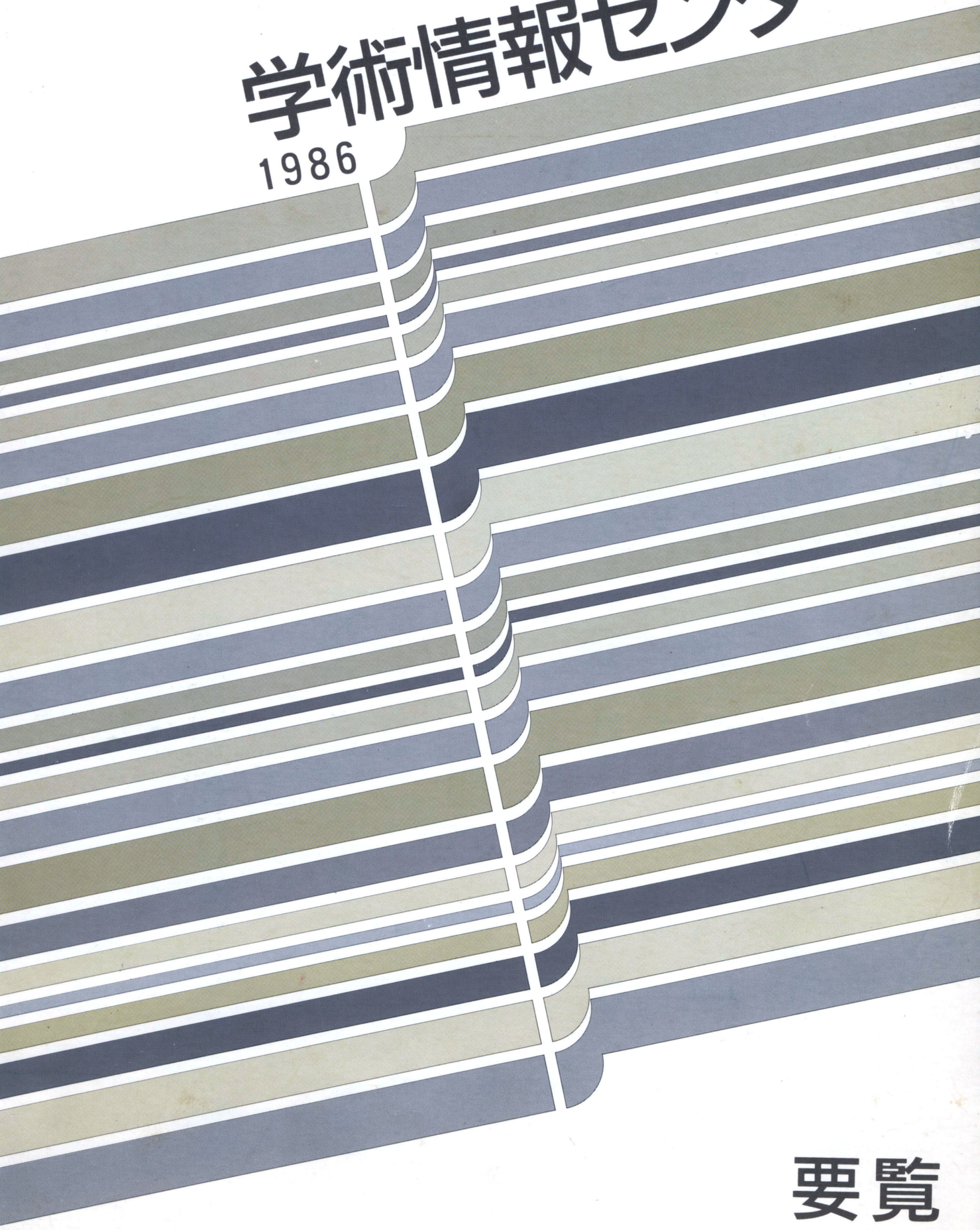
学術情報センター

1986



要覧

隣接の「占春園」

守山藩の上屋敷の庭園で、江戸の三名園の一つとうたわれた。延享三年(西紀1746)に建てられた碑文に「我が公園は占春と名づく。その中観る所は、梅桜桃李、林鳥池魚、緑竹丹楓、秋月冬雪、凡そ四時の景有らざるは莫し」とある。

目　次

ごあいさつ……1
1．沿　　革……2
2．組織・機構……3
3．学術情報システムの仕組み……4
4．学術情報ネットワーク……6
5．M-680Hシステム構成図……8
6．目録端末……10
7．図書館ネットワーク接続……11
8．目録・所在情報サービス……12
9．目録システムの操作……13
10．ファイル関連図……14
11．情報検索サービス……15
12．学術雑誌総合目録データベース編集事業……16
13．学術雑誌総合目録欧文編新版データベースの編集過程……17
14．国際協力……18
15．教育・広報活動……19
16．評議員・運営協議員・職員等……20
17．学術情報センター内配置図……表3

ごあいさつ

近年、学術情報は急激に増大し、学術研究の情報依存性もますます高まっております。このような状況をふまえて昭和55年１月に行なわれた学術審議会の「今後における学術情報システムの在り方について」の答申以来、学術情報システムの早期実現が強く要望されてきましたが、今回文部省当局はじめ関係者各位の御尽力により、その中枢機関となるべき学術情報センターが国立大学共同利用機関として設置されたものであります。学術情報センターは、研究者の学術研究の環境整備を目指すもので、当面次のような事業を行うものであります。

第１に、全国の大学等の図書館の協力を得て、その所蔵する図書及び雑誌の目録システムデータベースを構築することであります。これは図書館に設置された端末機を通じて行うオンライン目録作業によって、図書館業務の情報システム化をも支援する一方、目録システムデータベースと、図書及び雑誌の相互貸借システムとを結合することによって、これらの一次情報の迅速かつ有効な利用を可能とするものであります。

第２に、自然科学、社会科学、人文科学の広範囲な領域の研究者や学協会の協力のもとに、オリジナルな学術データベースを形成するとともに、既成の多様なデータベースのうち学術研究にとって有用なものを導入して広く検索サービスを提供することであります。学術研究の先導性からみて、これらのデータベースには高度の専門性の故に市場性の乏しいものや、複雑高度の情報構造を備えたものも多いのでありますが、これらを遅滞なく構築、提供できなくては、我が国の学術の発展は望めません。これらのデータベースは、上記の目録システム、相互貸借システムと連係することによって、二次情報による文献検索から始まって、一次情報のアクセスに到る一貫したサービスの提供を可能とします。

第３に、全国の大学等の図書館や計算機センターなどを結ぶディジタル・ネットワークを構築・運用し、広く研究者に対し種々の情報資源へのアクセスや、電子メール、ファクシミリなどを含む多様な形態による情報の授受の便宜を提供することであります。

第４に、学術情報システムの円滑な発展と運用を目指して計画を推進するとともに、システム内外の関係機関とつねに連絡・調整につとめることによって、広く研究者のニーズに応えることであります。

第５に、学術情報及び学術情報システムにかかわる研究開発を推進することによって、その成果を学術情報システムのサービスに反映させるとともに、この分野における基礎研究の発展に貢献することであります。

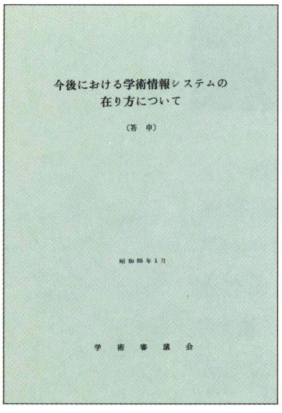
そして最後に、学術情報システムの諸業務にたずさわる専門職員や利用者等に対して、適切かつ多様な研修の場を提供するとともに、広く研究者との意見交換を通じて、学術情報システムの普及発展に寄与することであります。

発足後間もない学術情報センターにとって、これらの事業の多くは、その緒についたばかりですが、センターの構成員一同は全力をあげてその推進に努める所存であります。

今後とも関係各位の一層の御指導と御支援を切にお願い申上げる次第であります。

昭和61年７月　　学術情報センター所長　猪瀬　博

1. 沿　革



学術審議会第３次答申（学術振興に関する当面の基本的施策）において、基本的施策の提案として、「学術情報の流通体制の改善について」指摘　昭和48年10月31日

東京大学情報図書館学研究センター発足　51年５月10日

東京大学情報図書館学研究センターニュース創刊（文献情報センターニュースの前身）　53年３月１日

昭和53年度図書館情報学セミナー前期開講（文献情報センターセミナーの前身、昭和47年６月第１期開講、以後、年２回開催）　53年５月８日

特定研究「大学図書館における情報処理トータルシステムの開発」開始　53年７月７日

OKITAC-50／model 40導入　53年７月11日

文部大臣から学術審議会に対して「今後における学術情報システムの在り方について」諮問　53年11月28日

第１回情報図書館学シンポジウム開催（文献情報センターシンポジウムの前身、以後６月、12月の年２回開催）　53年12月２日

学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について」答申　55年１月29日

学術雑誌総合目録人文・社会科学欧文編データベース編集事業完了　55年４月７日

文部省、学術情報センターシステムの開発調査開始（以後、昭和58年度まで継続）　55年５月

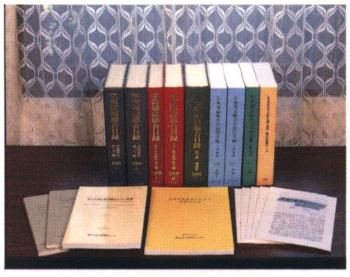
学術雑誌総合目録欧文編データ更新事業開始　55年６月20日

学術雑誌総合目録人文・社会科学欧文編（1980年版）刊行　55年８月25日

学術雑誌総合目録個別版磁気テープサービス開始　55年11月13日

「学術雑誌総合目録人文・社会科学欧文編変遷マップ」刊行　56年７月25日

「大学図書館のシステム化」刊行　56年10月31日



56年12月４日　学術雑誌総合目録和文編新版データベース編集事業開始

57年３月11日　学術雑誌総合目録欧文編1982年補遺版データベース編集事業完了

57年３月30日　「東京大学情報図書館学研究センター紀要」創刊

57年７月20日　学術雑誌総合目録データベース・オンライン検索システムTOOL-ULP公開

58年１月25日　逐次刊行物目録規則研究集会開催

58年４月１日　「情報図書館学研究センター」が改組転換され、「文献情報センター」となる

58年６月２日　学術雑誌総合目録和文編本調査開始

58年９月１日　機種選定終了（HITAC M-280H）

58年12月２日　第１回文献情報センターシンポジウム開催

59年２月25日　筑波大学大塚地区E館にハードウェア（HITAC M-280H）搬入

59年４月１日　筑波大学大塚地区E館へ移転、組織・機構を拡大して新発足

59年４月11日　全国共同利用施設となる

59年７月７日　文献情報センター開所式挙行

59年12月21日　東京工業大学を皮切りに接続開始

60年８月20日　「東京大学文献情報センター紀要」創刊

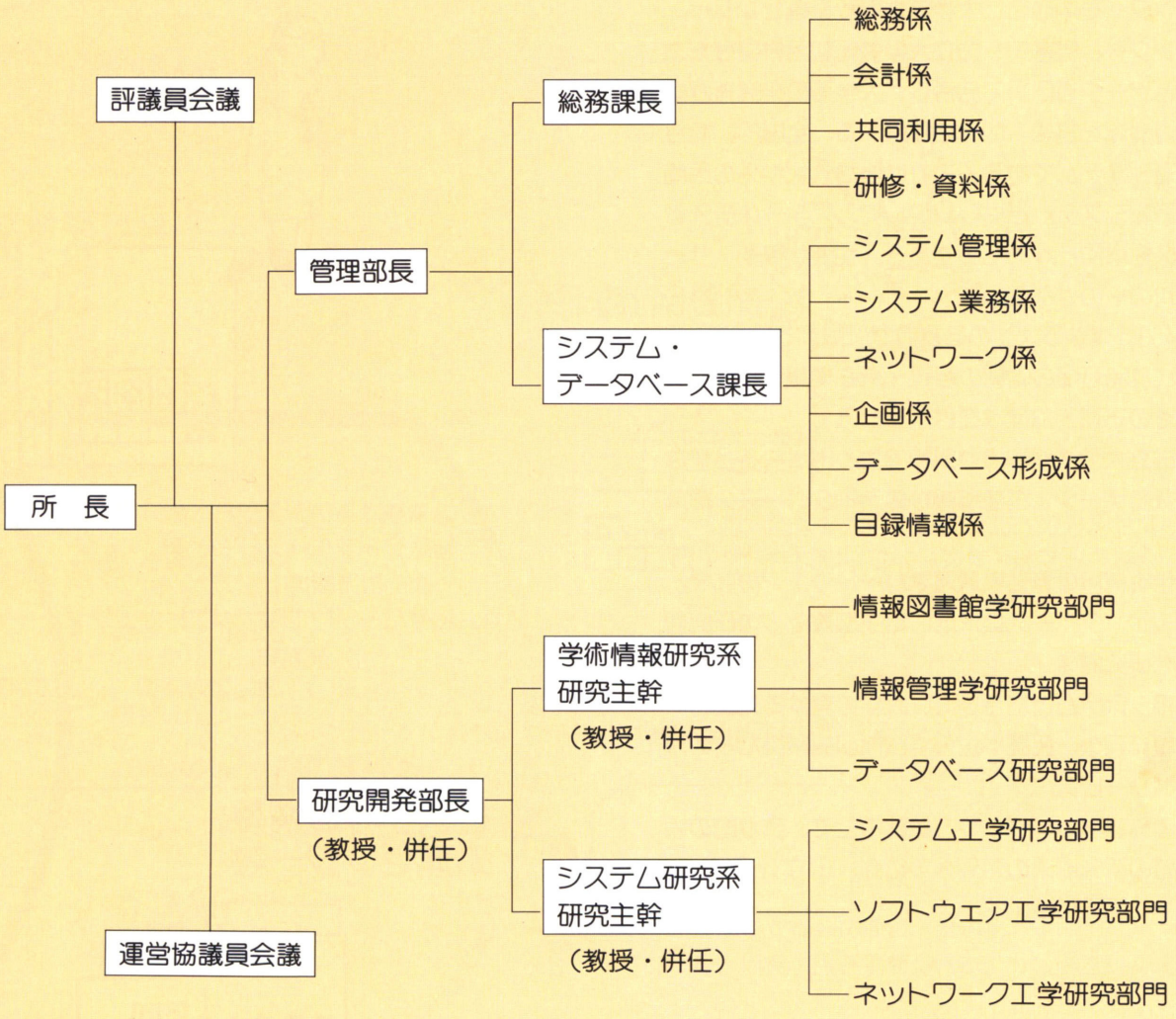
61年４月５日　東京大学文献情報センターを改組拡充して学術情報センター発足

2.組織・機構

学術情報センターは、国立大学共同利用機関として、国立学校設置法施行令第7条の2に、「学術情報の収集、整理及び提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発」とその目的が記されている。事業及び研究開発として次のものがある。

1) 学術情報システムの計画・連絡調整　2) 学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発　3) 図書館等による一次資料（学術図書・雑誌等）の体系的・網羅的収集に対応して、図書・雑誌の目録・所在情報の形成及び迅速・的確な提供サービス　4) 二次情報（書誌、抄録、数値、画像等）の迅速・的確な提供サービス　5) データベース形成の促進　6) 教育・訓練等

次に昭和61年度の組織図を示す。



（昭和61年4月5日現在）

職　　員	人　数
所　長	1
管理部	
事務官、技官	17
研究開発部	
教　授	4
助教授	5
助　手	1
総　　数	28

3．学術情報システムの仕組み

学術情報システムは、人文、社会、自然科学の全分野の学術情報を対象とし、全国の国公私立大学の参加のもとに、学術情報センターを中心に、大学の大型計算機センター、情報処理センター、図書館、国立大学共同利用機関等をコンピュータとデータ通信網で結合し、大学等の研究者が必要とする学術情報を迅速・的確に提供する、全国的、総合的な情報流通システムである。これはまた、大学外の民間や諸外国の情報システムともリンクして、大学外の研究者への情報提供も可能とするものである。主要な機能・サービスとして次のものがある。

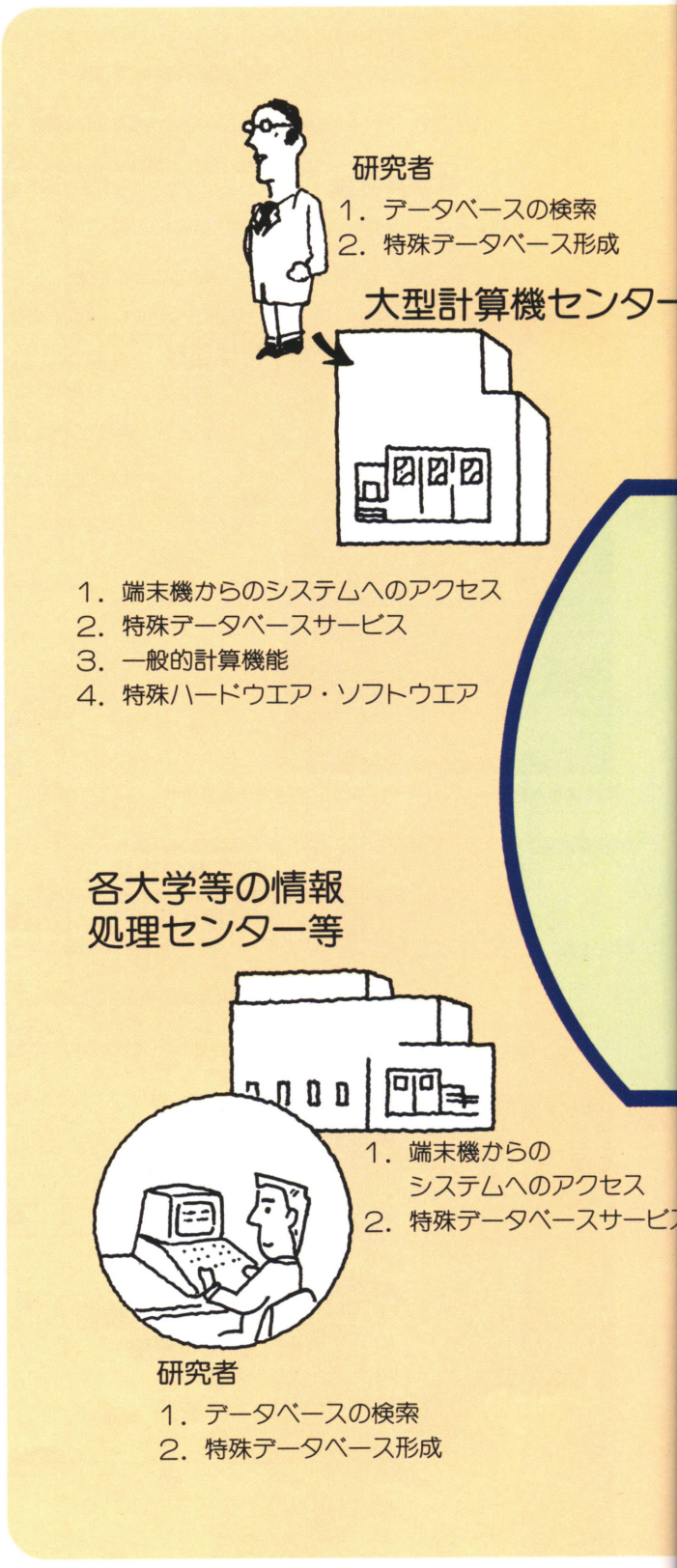
1）全国の460に達する大学の図書館が所蔵する図書約1億4千万冊、及び190万種の雑誌の目録・所在情報データベースの形成とその迅速・的確な提供サービス

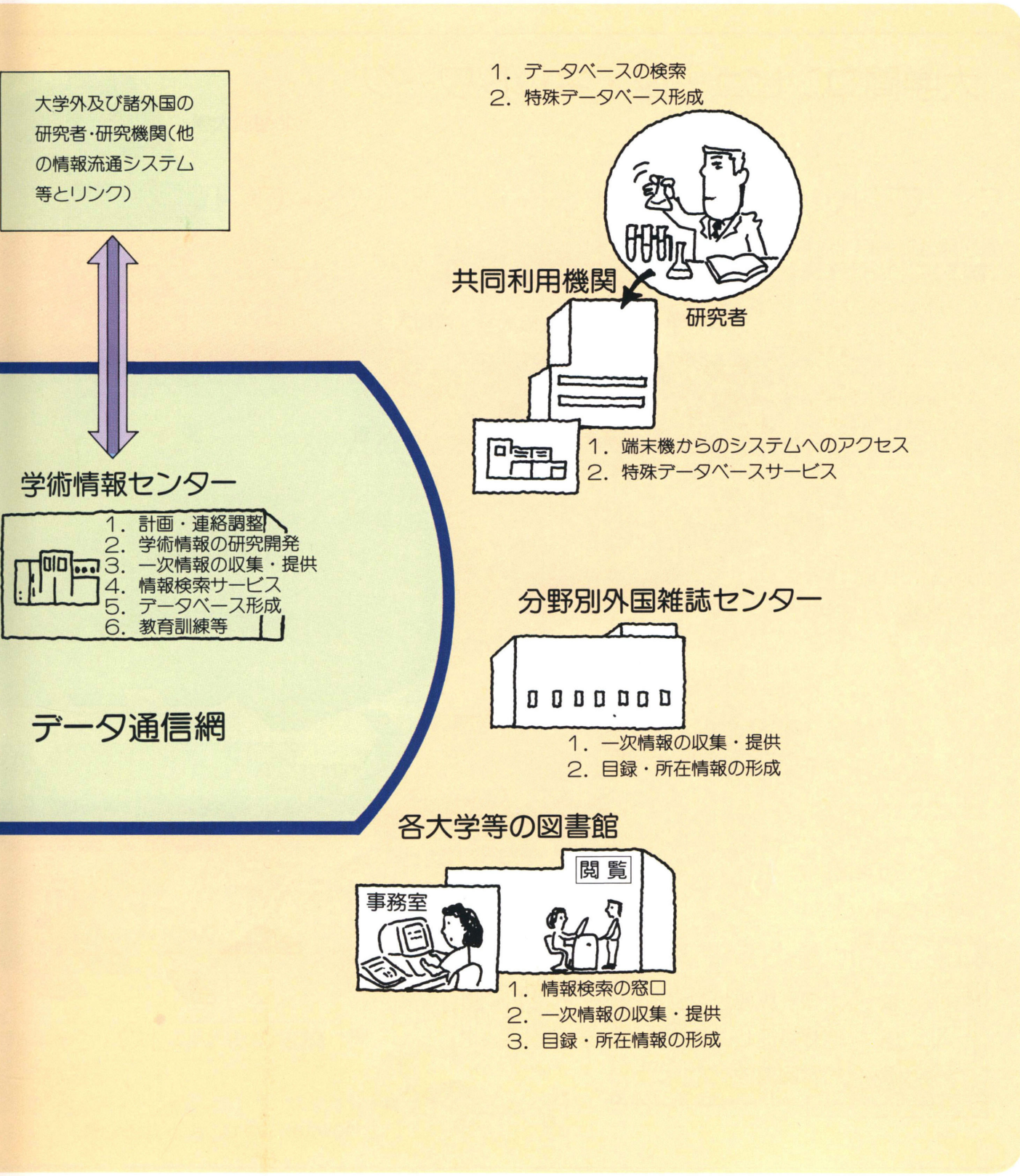
2）大学、国立大学共同利用機関等で生み出される多様な研究成果、数値データ、画像情報等のデータベースの形成と検索サービス

3）高度な学術情報の流通に最適なハードウエアの開発、情報の管理・データベースの形成、電子図書館等の研究開発等総合的な研究開発

4）他の情報システムと結合して、大学の有する先駆的、独創的な情報資源の、民間や国公立試験研究機関などの研究者への提供サービス

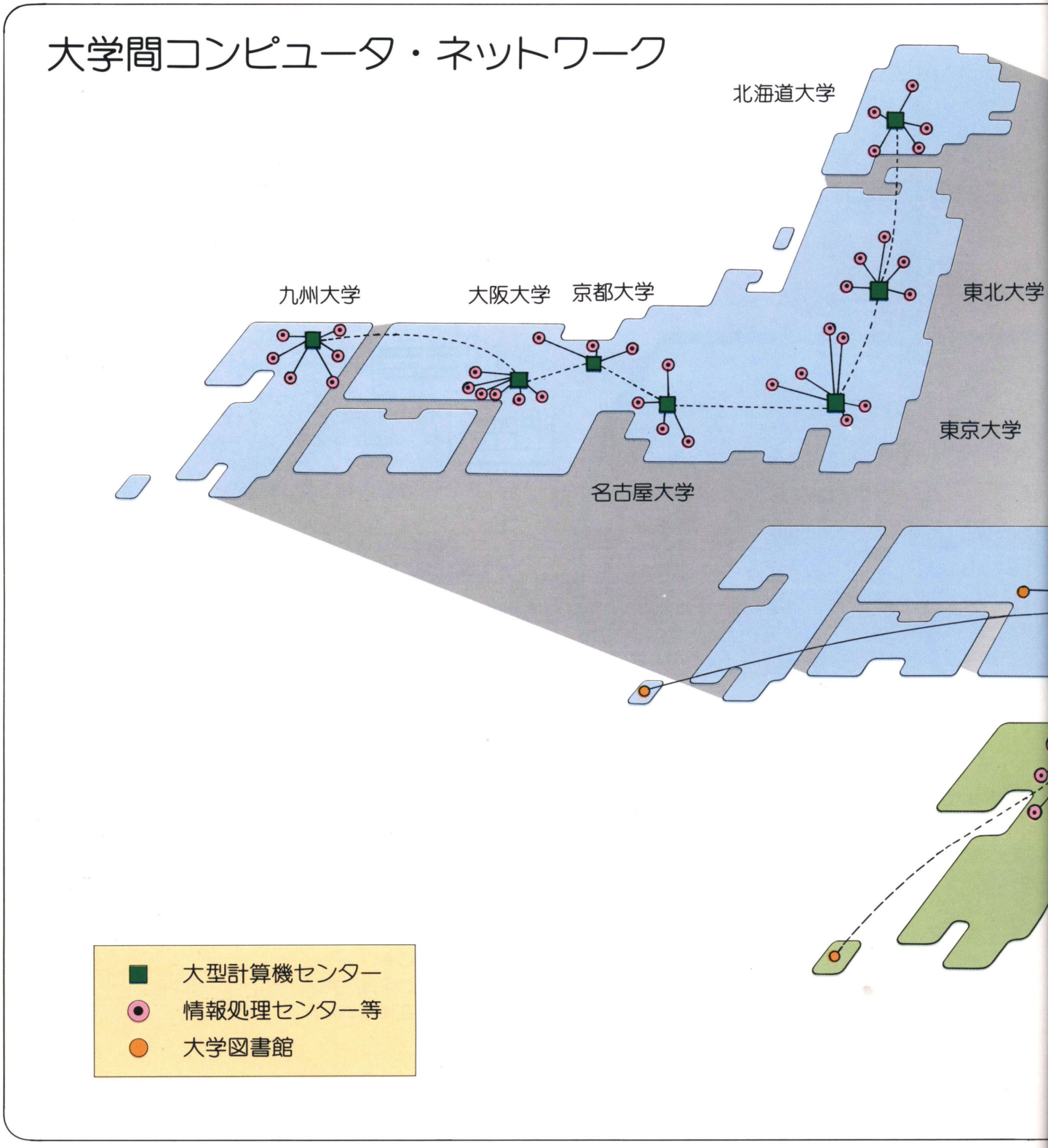
5）諸外国の情報ネットワークと接続の上で、我が国の大学等の研究者の研究成果の海外への紹介

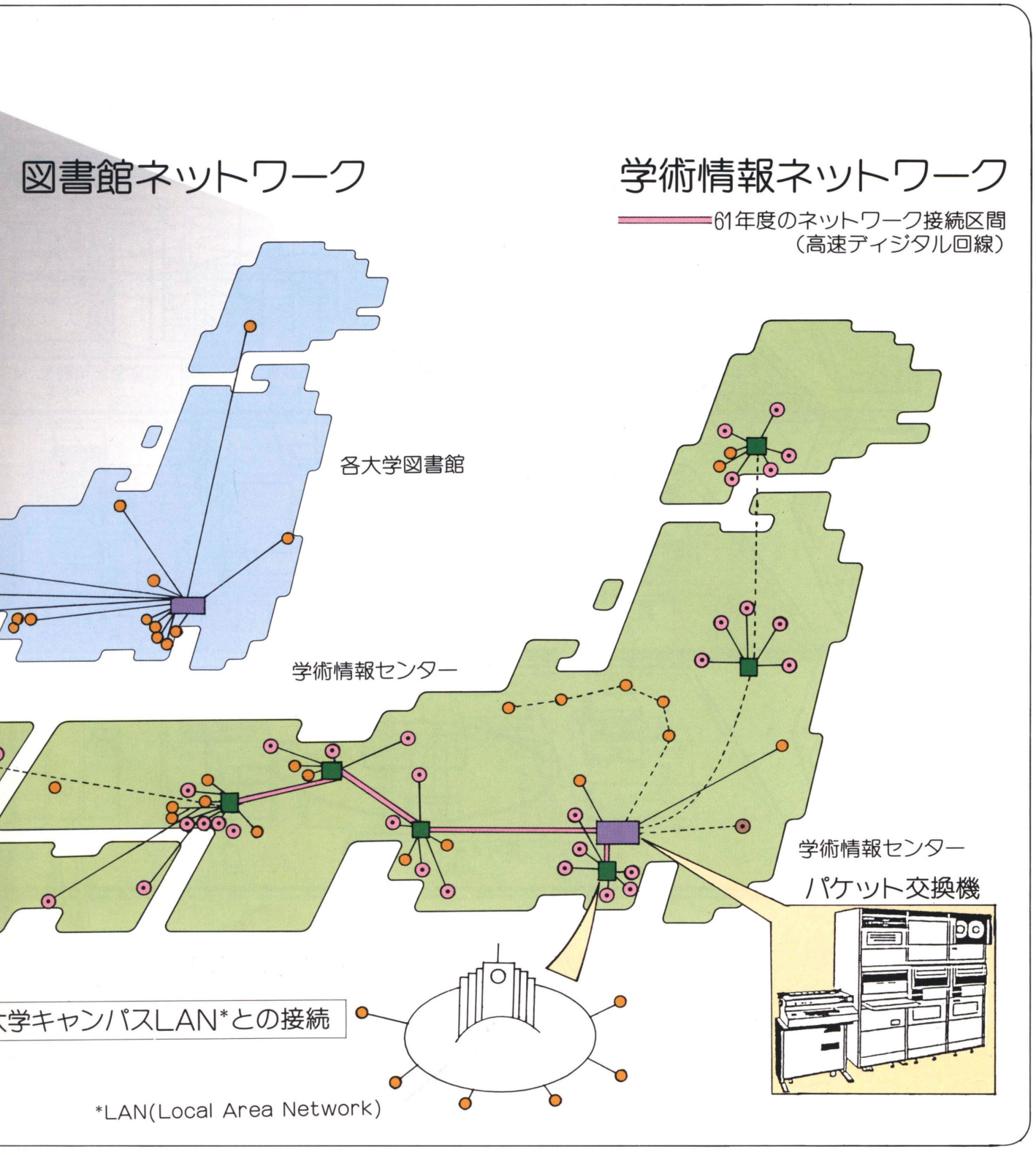



大学外及び諸外国の研究者・研究機関（他の情報流通システム等とリンク）
学術情報センター
1．計画・連絡調整
2．学術情報の研究開発
3．一次情報の収集・提供
4．情報検索サービス
5．データベース形成
6．教育訓練等
データ通信網
1．データベースの検索
2．特殊データベース形成
研究者
共同利用機関
1．端末機からのシステムへのアクセス
2．特殊データベースサービス
分野別外国雑誌センター
1．一次情報の収集・提供
2．目録・所在情報の形成
各大学等の図書館
閲覧
事務室
1．情報検索の窓口
2．一次情報の収集・提供
3．目録・所在情報の形成

4.学術情報ネットワークの形成

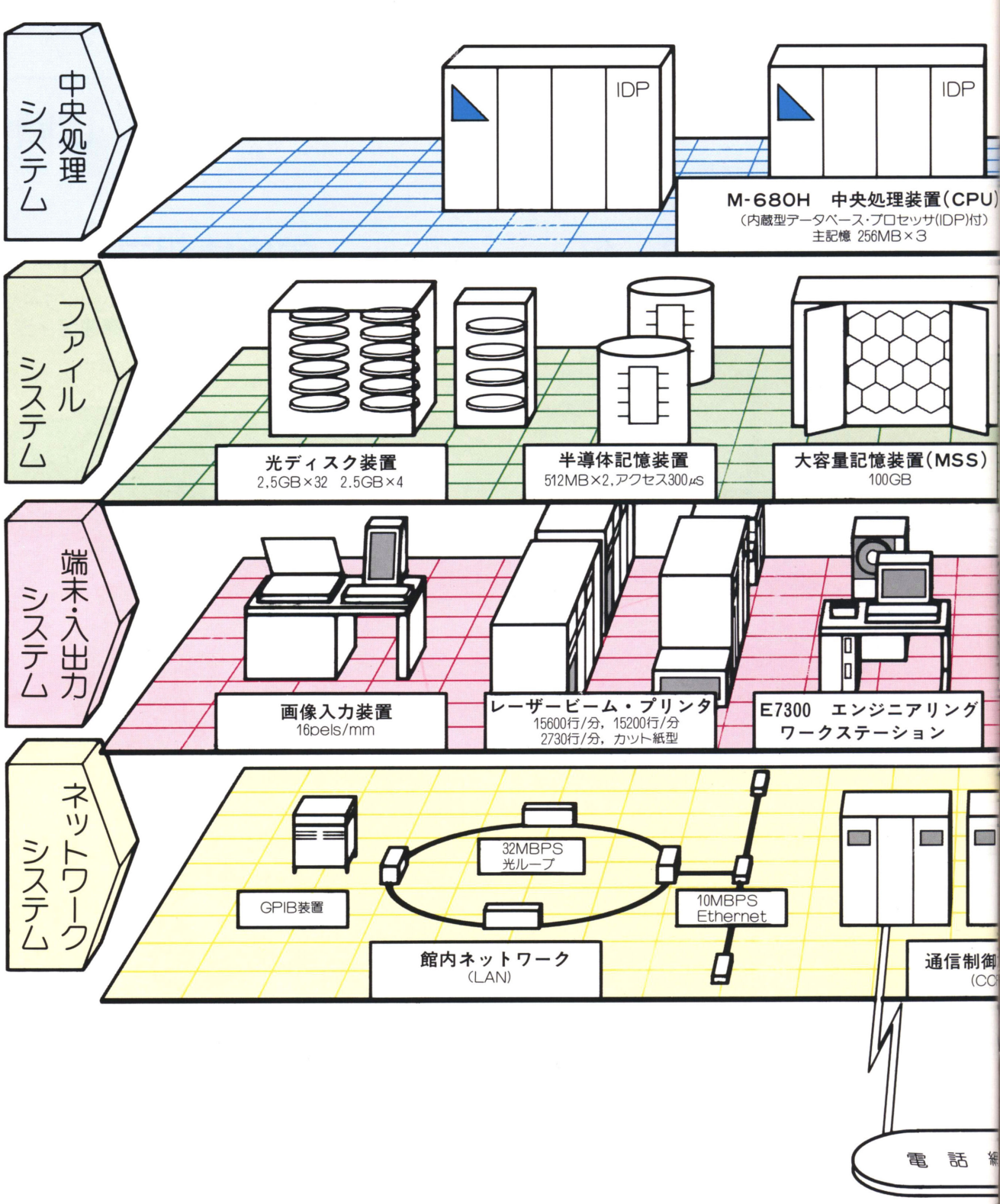
学術情報センターでは、研究者間での情報流通を促進するため、学術情報ネットワーク構築事業を行なっている。これは高速ディジタル回線を使用して日本全国の大学、研究機関を結ぶ研究者専用の情報通信ネットワークである。大学計算機センター間コンピューター・ネットワーク(N-1)の基盤通信路として、また大学図書館と学術情報センターを結ぶ図書館ネットワークの通信路として利用される。また全国研究者向けの学術情報データベース・サービスや電子メール・サービスもこのネットワークを通じて行なわれる。現在、広い範囲の研究者に簡便に利用していただけるよう、各大学のキャンパス内通信網（ＬＡＮ）との接続や、国内外の他ネットワーク・サービスとの相互接続を推進している。将来は高速ディジタル回線の特徴を生かし、画像、フルテキスト、音声などを含めたマルチメディア通信サービスへ発展することを検討している。



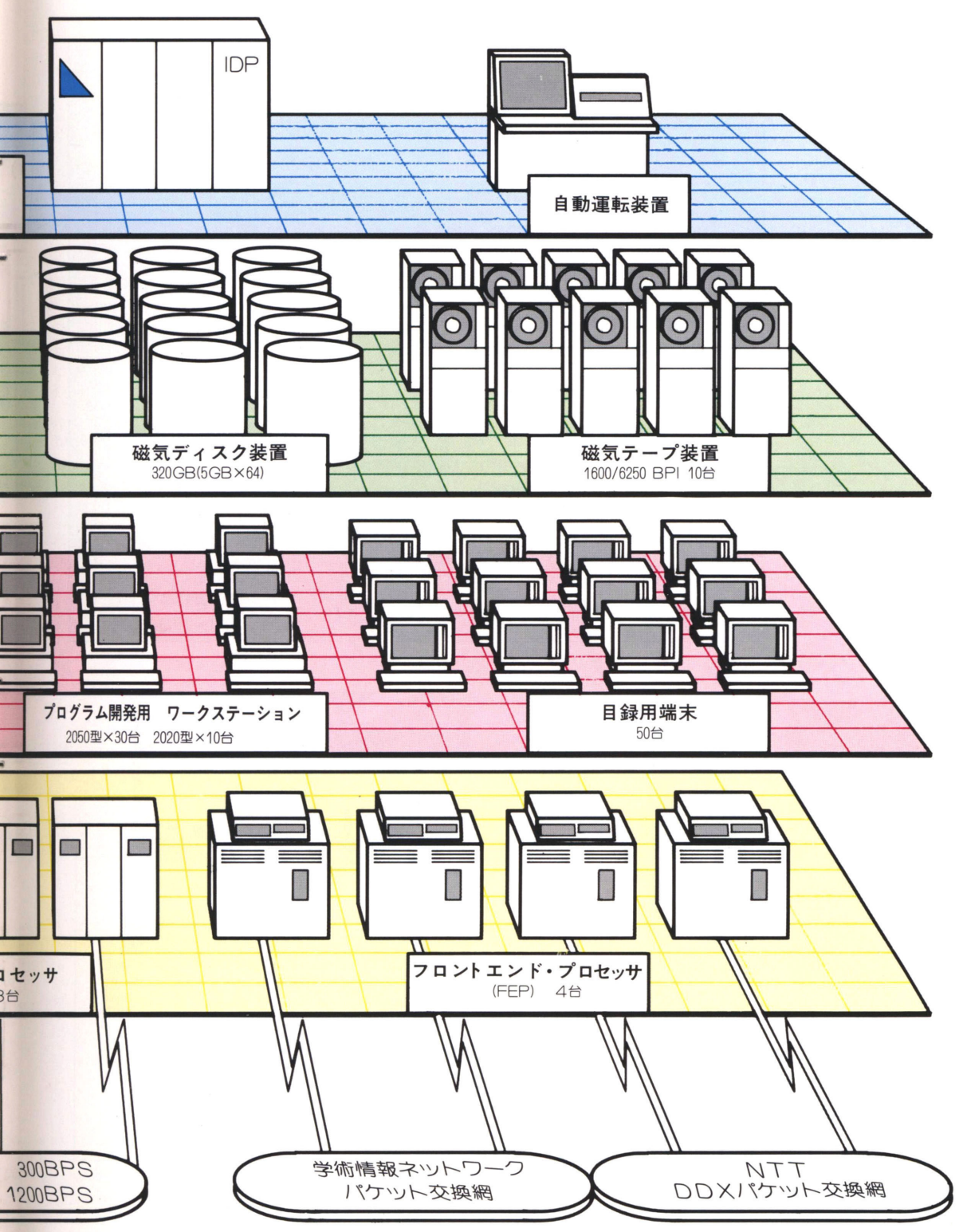

図書館ネットワーク
学術情報ネットワーク
61年度のネットワーク接続区間
（高速ディジタル回線）
各大学図書館
学術情報センター
学術情報センター
パケット交換機
大学キャンパスLAN*との接続
*LAN(Local Area Network)

5.M-680H システム構成図

全国の大学等の研究者及び図書館に対しオンライン情報検索サービスや目録所在情報サービス等を提供するため、高性能のコンピュータ・システムが必要である。このM-680Hを中心にしたシステムは、大規模データベース・サービスの諸要求に応えられるよう構成されている。中央処理システムは３系のM-680Hを複合させた疎結合多重プロセッサである。IDP（内蔵型データベース・プロセッサ）により、高速のデータベース検索ができる。ファイル・システムの主体となるのは総容量320GB（1GB=10億バイト）の磁気ディスク装置群であり、大規模データベースの蓄積を可能



にしている。また半導体記憶装置（ICディスク）や光ディスク等により、さまざまな種類のデータ蓄積が可能である。端末系には、講習会等で利用できるよう、目録用端末を50台備えている。外部サービスを行うためのネットワーク・システムには、モデム接続端末用のCCP装置に加え、パケット交換網用のFEP装置があり、電話網、学術情報ネットワーク、NTT-DDX網など各種通信メディアからのアクセスに対応している。



6.目録端末

目録端末は図書館における目録作業用の端末として開発された。センター内には、日立製作所製の目録端末が42台設置され、講習会等に使用されている。主な仕様は、下記の通りであるが、図書館での各国語の文献の目録作業のために、拡張文字EXC、(Extended Character Set)という特殊アルファベットや音標符号を、容易に入力できるように設計されているのが特徴である。

●日立製仕様

基本となった端末装置：
日立製作所製T560/20PS

カナ漢字変換による日本語入力機能をもつインテリジェント端末。端末本体、キーボード及び端末制御装置に改造を加えた。

表示文字数

全角文字(漢字)960字(40字×24行)
半角文字(アルファベット)
1,920字(80字×24行)

使用ブラウン管

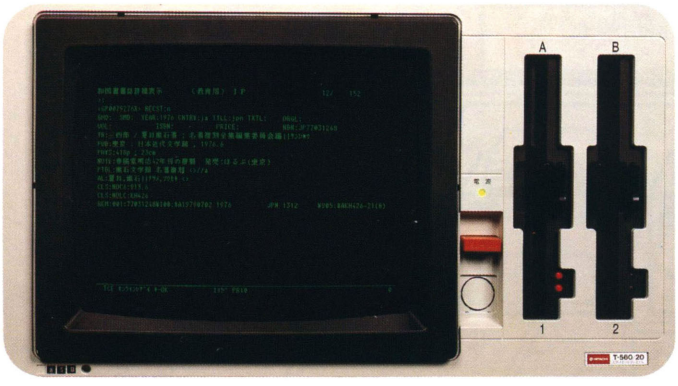
15インチモノクローム(緑)

文字構成

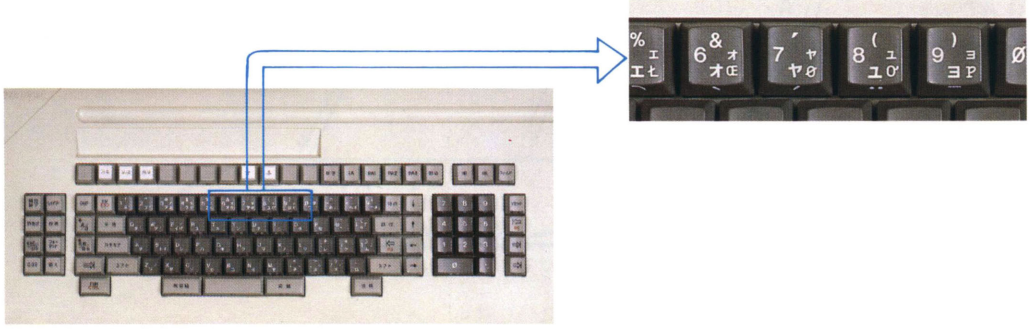
全角文字 24×24ドット
半角文字 12×24ドット

●使用文字種

区分	種別	字体例	表示角	入力方式	備考	字種数
JIS C6220	アルファベット	a b c	半角	キーボード中の対応する文字を打鍵	——	158種
	英記号	, : #				
	カナ	ア イ ウ				
	カナ記号	″ ° 、				
JIS C6226	漢字	亜 以 右	全角	カナ漢字変換	主に和書に使用	6877種
	記号	☆ ◎ ※		コード入力		
	ギリシャ文字	α β γ			洋書の書名標題等を原綴で表記するために使用する	
	キリル文字	а б в				
拡張文字(EXC文字)	特殊アルファベット	æ ∂ ß	半角	キーボード中の対応する文字を打鍵		685種
	音標符号つきアルファベット	á ä ç		キーボード中の音標符号とアルファベットの複合打鍵		
	2重音標符号つきアルファベット	ấ ǫ́ ộ				
	表示用音標符号	·· ∘ ~		——	入力操作中に過渡的に出現するだけ	

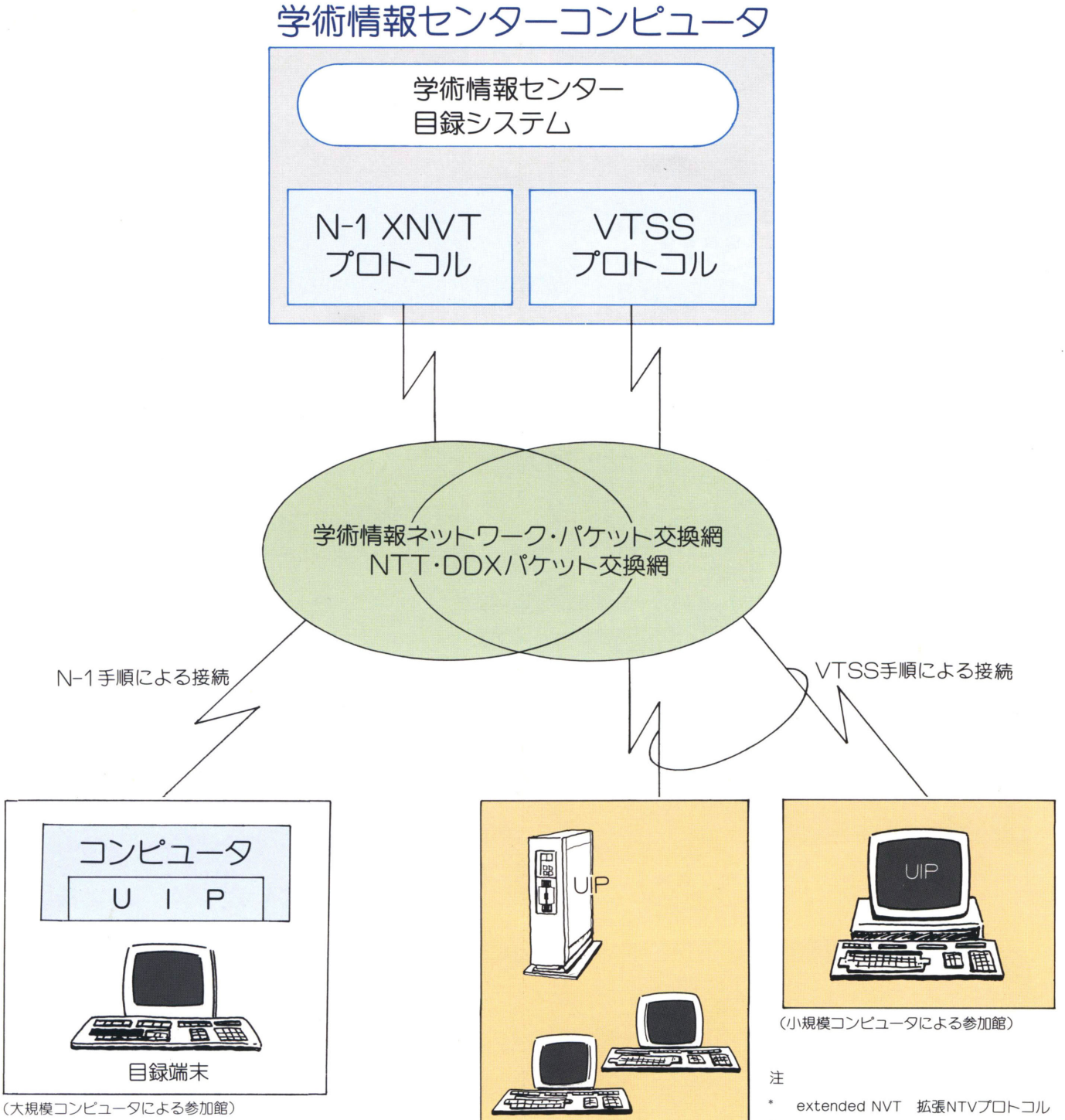


講習会室に設置された目録端末



7. 図書館ネットワーク接続

学術情報センターの前身である文献情報センターでは、目録システムを遠隔参加館からオンライン使用していただくため、下図のような2系統のネットワーク接続手順を開発、運用してきた。ひとつは大学間コンピュータ・ネットワーク(N-1)を採用した接続手順であるが、漢字や拡張文字(EXC)の通信機能のために、特にXNVT*手順を開発した。もう一方は小規模コンピュータによる接続のためのVTSS**手順である。どちらもユーザー側コンピュータにはUIP***が搭載され、高度な画面型マン・マシン・インタフェースを提供している。今後は一般ユーザー向けの検索サービスにも、このような新しいマンマシン・インタフェースが活用されてゆくであろう。



注

* extended NVT　拡張NTVプロトコル

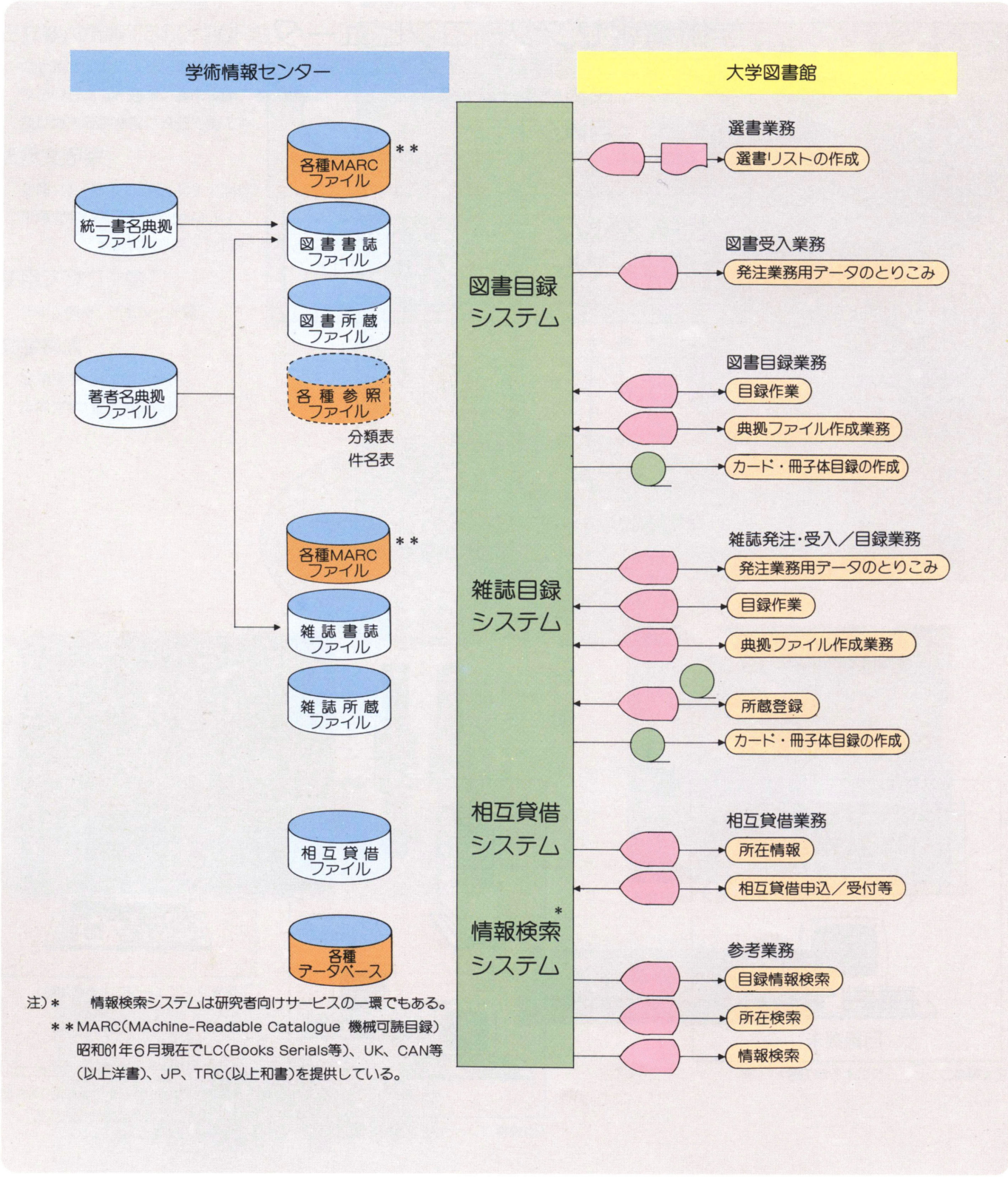
** Virtual Screen transfar on TSS link
TSS接続による仮想画面転送方式

*** User Interface Program

8.目録・所在情報サービス

オンライン目録システムは、数多くの図書館からの共同入力・分担目録作業(shared cataloguing)により、その成果であり資源となる総合目録を維持して、全国的書誌調整を実現し、それによりオンライン総合目録を介して参加館情報サービスの拡充を目指すものである。

この書誌調整機能は、ILLシステムや情報検索システムと連携して一次資料提供を迅速化する。



注)＊　情報検索システムは研究者向けサービスの一環でもある。
＊＊MARC(MAchine-Readable Catalogue 機械可読目録)
昭和61年6月現在でLC(Books Serials等)、UK、CAN等(以上洋書)、JP、TRC(以上和書)を提供している。

9. 目録システムの操作

オンライン目録システムは、画面型のユーザーインターフェースを持ち、初期画面には選択できる9種の処理が表示される。洋図書目録登録を例にとると、書誌データが既に図書書誌ファイルに登録されている場合、目録作業は画面3で本を確認した後、Registerコマンドをいれて画面5となり、必要な所蔵データを入力して終了する。典拠コントロール(画面4)をはじめ、データの品質管理、一貫性保持を実現するように構成されている。

また、和雑誌目録検索を例にとると、書誌の検索までは同様に行い、書誌詳細表示画面からLookup Holdings コマンドを入力すると所蔵検索ができ(画面6)、LooKup Familyコマンドにより誌名変遷マップを表示させることができる(画面7)。

1. 初期画面

```
業務選択
1.和図書目録登録  11.和図書目録検索  21.ＩＬＬ
2.洋図書目録登録  12.洋図書目録検索
3.和雑誌目録登録  13.和雑誌目録検索
4.洋雑誌目録登録  14.洋雑誌目録検索  99.業務終了
>: _

目録／ＩＬＬシステムのサービス時間帯は、次のとおりです。
      平　日－－  9:00 ～  17:00  ;  土曜日－－  9:00 ～  12:00
ただし、次の時間帯は、サービス致しません。
      月曜日－－  9:00 ～  13:00  ;  木曜日－－  12:00 ～  17:00

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  センターからのお知らせ  ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎時差更新および教育用データベースのクリアは、毎週水曜日のサービス終了
  後に行います。

ジャパン・マーク共同利用実験（JP/MARC 著作権者：国立国会図書館）
TCE ｵﾝﾗｲﾝｼｽﾃﾑ #-OK          ｲﾒｰﾙ PR12                          0
```

2. 洋図書書誌検索

```
洋図書書誌検索・簡略表示          NC          1-     4/     4
>: _
TITLE= LIBRARY FUTURE
AUTH =
AKEY :          ISBN:          LCCN:
PUB  =                         YEAR:
PLACE=                         CNTRY:     LANG:
SH   =
WORDS=
ID   :          PID:
FILE :
  1.<BA00041045>The future of the catalog : the Library's choices / by S. Micha
    el Malinconico and Paul J. Fasana. -- 1979(Professional librarian series)
  2.<BA00041249>The future of videotext : worldwide prospects for home/office e
    lectronic information services / by Efrem Sigel with Peter Sommer ... [et al
    .]. -- 1983(Communications library)
  3.<BA00041034>Books, libraries, and electronics : essays on the future of wri
    tten communication / by Efrem Sigel ... [et al.]. -- 1982(Communications lib
    rary)
  4.<BA00041329>Library leadership : visualizing the future / edited by Donald
    E. Riggs. -- 1982

TCE ｵﾝﾗｲﾝｼｽﾃﾑ #-OK          ｲﾒｰﾙ PR12                          0
```

3. 洋図書書誌詳細表示

```
洋図書書誌詳細表示                NC                3/     4
>: _
<BA00041034>
GMD:  SMD:  YEAR:1982 CNTRY:us TTLL:eng TXTL:eng ORGL:
VOL:          ISBN:0867290242 PRICE:          LCCN:82015229
TR:Books, libraries, and electronics : essays on the future of written
   communication / by Efrem Sigel ... [et al.]
PUB:White Plains, N.Y. : Knowledge Industry Publications , c1982
PHYS:139 p. ; 24 cm
NOTE:Bibliography: p. 135-136
NOTE:Includes index
PTBL:Communications library <BA00041056>//a
AL:xSigel, Efrem <DA00070822>
CLS:LCC:Z678.9
CLS:DC19:025.3/028/54
SH:LCSH:Electronics in libraries -- Addresses, essays, lectures//K
SH:LCSH:Electronics in printing -- Addresses, essays, lectures//K
SH:LCSH:Electronic publishing//K
SH:LCSH:Book industries and trade -- Technological innovations//K
SH:LCSH:Publishers and publishing -- Technological innovations//K

TCE ｵﾝﾗｲﾝｼｽﾃﾑ #-OK          ｲﾒｰﾙ PR12                          0
```

4. 著者名典拠詳細表示

```
著者名典拠詳細表示                NC                1/     1
>: _
<DA00070822>
HDNG:Sigel, Efrem
TYPE:p
NOTE:Author's The Kermanshah transfer, 1973
```

5. 洋図書所蔵登録

```
洋図書所蔵後用入力                <BA00041034>          1/     1
>: _
<BA00041034>Books, libraries, and electronics : essays on the future of written
   communication / by Efrem Sigel ... [et al.]. -- 1982(Communications library
   )
<FA00015> 文横セ
  1.
<CC000006012O>
LOC:
VOL:      CLN: 010-S                    RGTN: S84445 CPYR:      LDF:
LTR:
```

6. 和雑誌所蔵検索・簡略表示

```
和雑誌所蔵詳細表示                <AN00025053>          12/    20
>: _
<AN00025053>ｴﾝｼｭ / 東京帝國大學文学部獨逸文學研究會. -- No.4(昭5.7)-9(昭7.6);5
  巻1号(昭8.1)-8巻3･4号(昭12.1)
<FA001787> 東大
HLYR:1934-1937 HLV:6-8
```

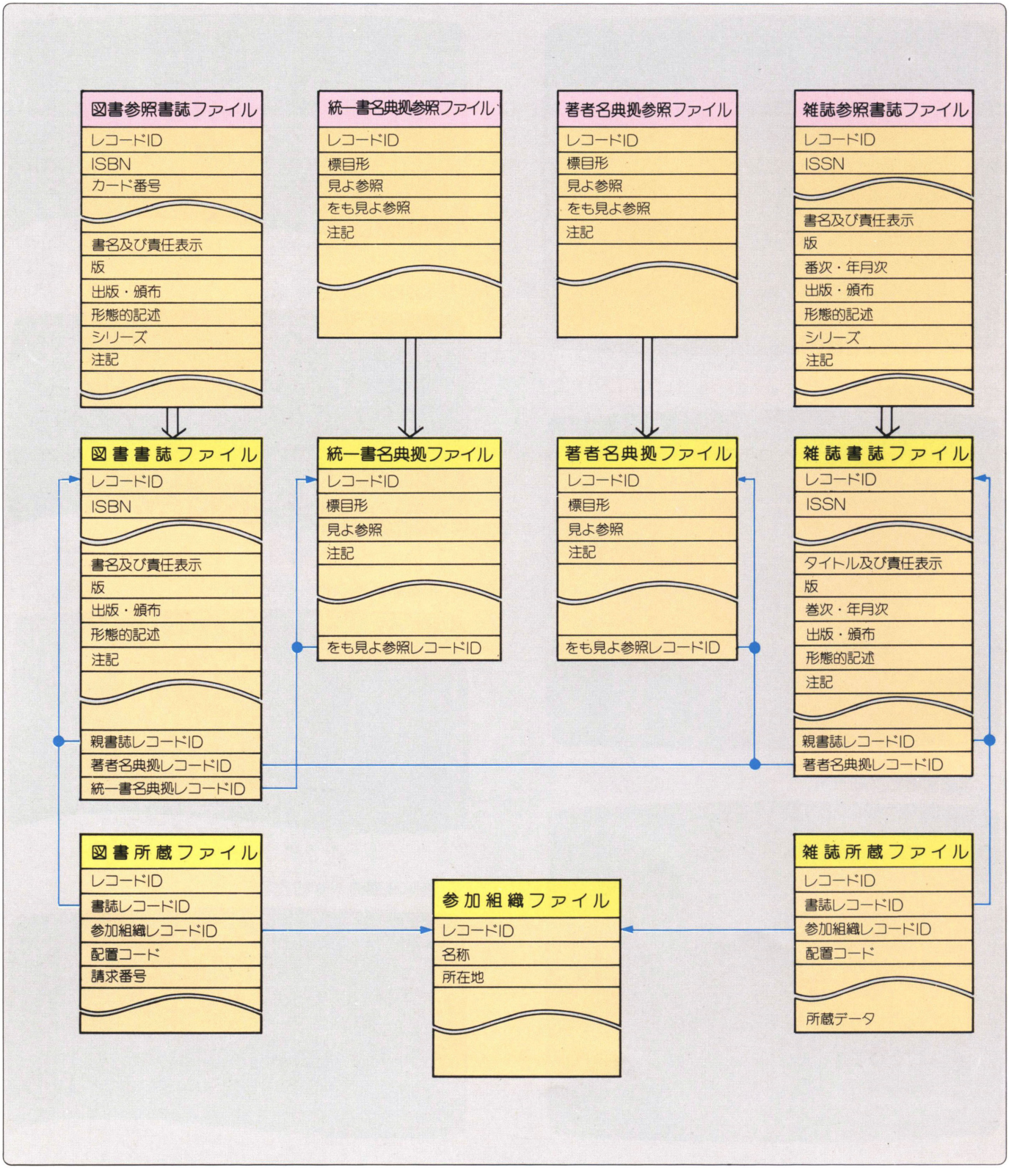
7. 雑誌変遷情報詳細表示

```
雑誌変遷情報詳細表示
>:
<00315700>
FMLY:003157-00
･････      ･････      ･････
: 1 :----->: 2 :----->: 3 :
･････      ･････      ･････
  1.<AN00226951> Ernte / 獨逸文学研究会. -- Nr 1(昭4.2)-No. 3(昭4.12)

  2.<AN00025053> ｴﾝｼｭ / 東京帝國大學文学部獨逸文學研究會. -- No.4(昭5.7)-9(昭7
.6);5巻1号(昭8.1)-8巻3･4号(昭12.1)
  3.<AN00155343> 独逸文學 / 東京帝國大學独逸文學研究會. -- 1年1輯(昭12.6)-7年3
輯(昭18.12)
```

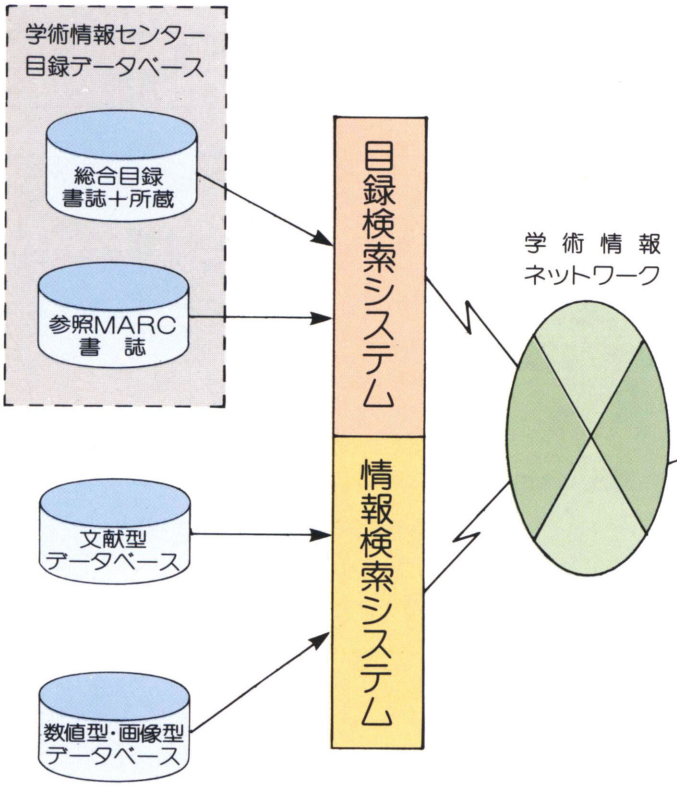
10. ファイル関連図

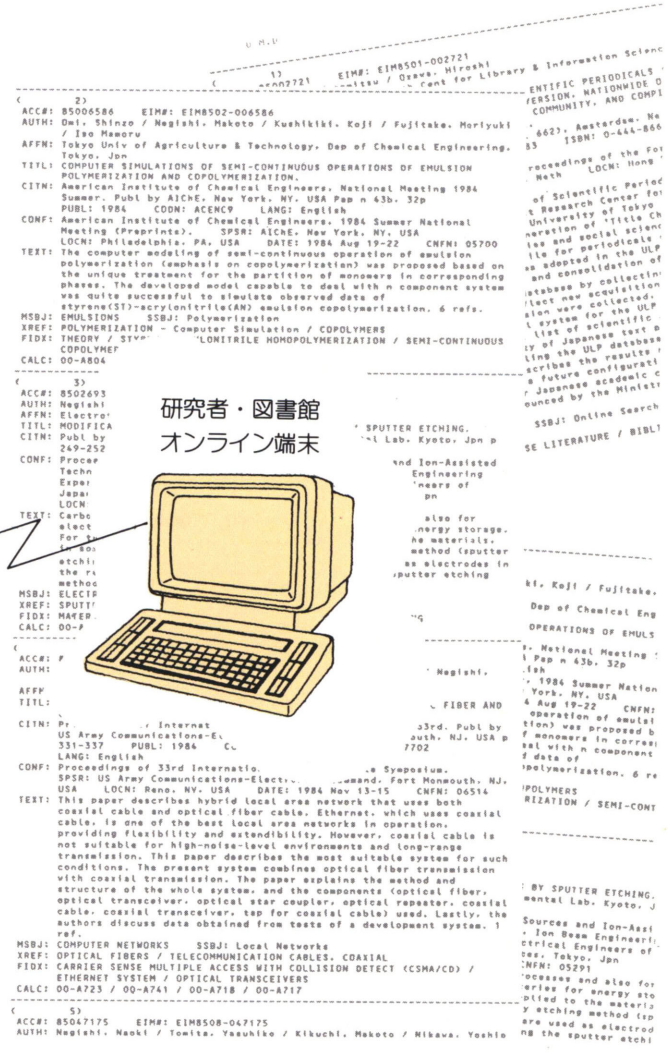
オンライン目録システムは関係型データベースの上で作動する。各ファイルの主なフィールドとレコード同士の関連をこの図は示している。図書・雑誌の書誌所蔵ファイル、著者名、統一書名の典拠ファイル、所蔵館を記録した参加組織ファイルなどからなっている。これらのデータベース形成のための参照ファイル群も、図書・雑誌の書誌ファイル、著者名、統一書名の典拠ファイルからなっている。データの良好な操作性を確保して、共同入力・分担目録作業の実現とデータベースの一貫性を維持する。



11. 情報検索サービス

学術情報センターでは、研究者向けサービスの一環として、大学等の研究者及び図書館を対象とする情報検索サービスを昭和62年4月から公開・実施するべく、現在、システム開発を行っている。抄録等の文献情報データベースばかりでなく、将来的には、数値情報・画像情報などを含む多様なデータベース・サービスをめざしている。さらに、情報検索の結果、研究者が入手したい原文献について、ILLシステムにより図書館に直接複写申込みができるような統合化サービスも計画している。





●情報検索サービスの現況

区　分	データベース名	内　　容	件　数	サービス状況
総合目録	洋雑誌総合目録	学術雑誌総合目録欧文編　1979、1980、1982年版	9万誌、62万所蔵	東大・大型計算機センターにてTOOL-ULPとして公開
	和雑誌総合目録	学術雑誌総合目録和文編　1985年版	4万誌、100万所蔵	昭和62年4月一般公開予定
MARC	LC MARC Books	米国議会図書館全国書誌(単行書)	28万件/年	昭和62年4月からの一般公開サービスを目途として、システム開発中
	LC MARC Serials	米国議会図書館全国書誌(雑誌)	11万件/年	
	Japan MARC	国立国会図書館全国書誌	6万件/年	
文献型データベース	COMPENDEX	米国EI社発行、工学文献抄録集	11万件/年	東大・大型計算機センターのTOOL-IRシステムにて公開
	EI ENGINEERING MEETINGS	米国EI社発行、工学会議録文献抄録集	10万件/年	
	ISTP & B	米国ISI社発行、科学技術図書・会議録所収論文書誌	14万4千件/年	昭和62年4月からの一般公開サービスを目途として、システム開発中
	MathSci (Mathfile)	米国数学会発行、数学文献抄録集	3万5千件/年	
	Life Sciences Collection	米国ケンブリッジ科学抄録社発行、生命科学文献抄録集	12万件/年	
	Harvard Business Review	米国ハーバード大学HBR誌所収論文全文	120件/年	

注）なお、数値型データベースのサービスについて、日本経済新聞社発行のNEEDS経済統計データベースを当面の対象として、検索・運用方式等の研究を進めている。

12. 学術雑誌総合目録データベース編集事業

学術雑誌総合目録データベースの編集事業は、情報図書館学研究センター以来の事業であり、既に、学術雑誌総合目録(学総目)人文・社会科学欧文編1980年版と欧文編1982年補遺版データベースおよび学総目和文編データベースを完成させ、雑誌サブシステムにて供用している。また、現在、欧文編新版データベースの編集を推進中である。

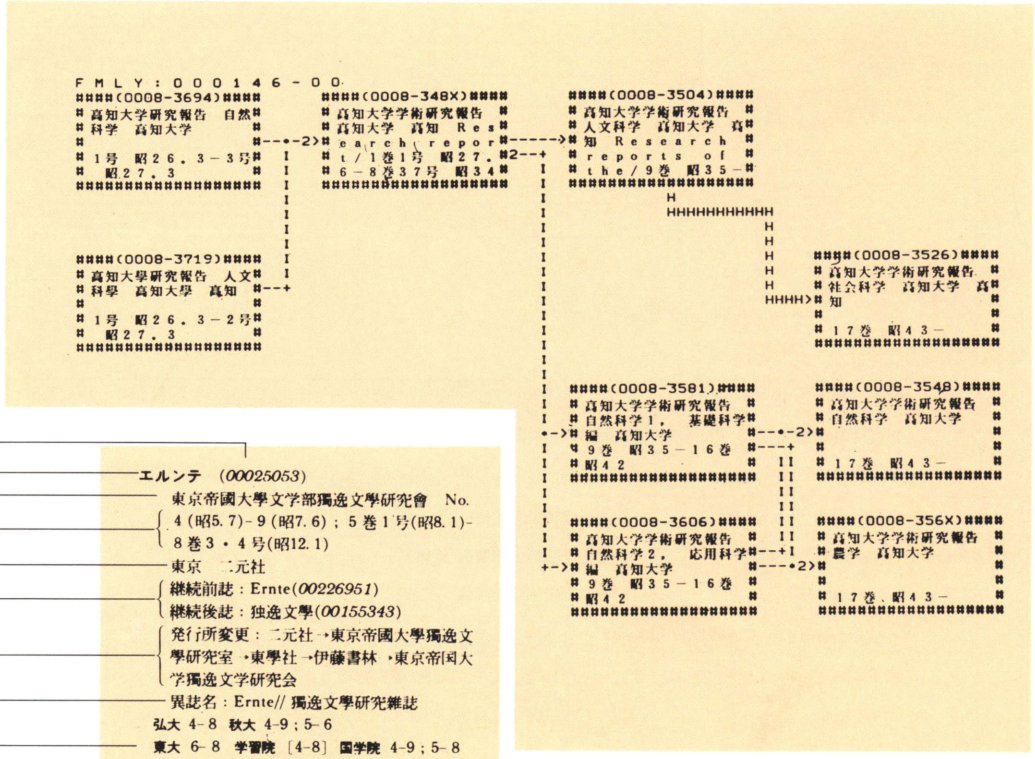
学総目データベースでは、雑誌名の変遷データを有効に管理するために、「2項関係」的データ構造を導入している。これにより、冊子体目録に加えて、「誌名変遷マップ」と称する雑誌関連図を出力することができ、利用者は求める雑誌を効率よく検索することができる。

編別		調査時点	収録雑誌数	収録所蔵データ数	参加機関数	利用・サービス形態			
						冊子体目録刊行	個別版DB作成	オンライン検索システム	学術情報センターシステム
欧文編	1982年補遺版	1980年8月現在	8,100誌(新収分のみ)	75,000件	489機関	1982年6月刊 30,143誌掲載 1,383ページ	大学個別に該当の書誌・所蔵データをデータベースから抽出し、学内所蔵目録などを作成するもの 既に152機関にて実施	TOOL-ULP (Tokyo Univ. On-Line Union List of Periodicals) 東大大型計算機センターを通じて全国の大学図書館・研究者に公開 1982年7月～	雑誌サブシステム初期データベースに利用
	人文・社会科学欧文編1980年版	1978年8月現在	36,881誌	175,000件	355機関	1980年8月刊 36,881誌掲載 上下巻 2,037ページ			
	自然科学欧文編1979年版*	1978年4月現在	38,600誌	373,000件	321機関	1979年3月刊 38,600誌掲載 上下巻 2,518ページ			
和文編		1983年5月現在	40,237誌	979,434件	623機関	1986年3月刊 38,076誌掲載 上中下巻 3,920ページ		TOOL-ULP型の検索システムを開発中	
欧文編新版		1985年10月現在	100,000誌(見込)	800,000件(見込)	650機関(見込)	1988年3月完成予定			雑誌サブシステム書誌・所蔵データベースを更新

注) ＊国際医学情報センター編集の原版を再編成したもの。

●学術雑誌総合目録和文編データベース

誌名変遷マップ ⇨



冊子体の表示例

⇩

誌名番号

書誌事項
- 誌名
- 責任表示
- 巻次・年月法表示
- 出版地、出版者
- 変遷注記
- 一般注記
- 異誌名注記

所蔵に関する事項
- サービス窓口略称
- 所蔵巻表示

エルンテ (*00025053*)

東京帝國大學文学部獨逸文學研究會 No.

4(昭5.7)-9(昭7.6); 5巻1号(昭8.1)-8巻3・4号(昭12.1)

東京 二元社

継続前誌:Ernte(*00226951*)

継続後誌:独逸文學(*00155343*)

発行所変更:二元社→東京帝國大學獨逸文學研究室→東學社→伊藤書林→東京帝国大学獨逸文学研究会

異誌名:Ernte// 獨逸文學研究雑誌

弘大 4-8 **秋大** 4-9; 5-6

東大 6-8 **学習院** [4-8] **国学院** 4-9; 5-8

昭女大近 6-8; [6-8] **東洋大** 4-9; 5-8

日女大 [6], 7-8 **武大** [6-8]

新大 4-9/6-7, [8] **富大** 5-7, [8] **金大** [6]

名大 8-9; [6] **愛院大** 4-9; 5-8

阪教大池 4-9; 5-7, [8] **神院大** 4-9; 5-8

天理大 4-9; [5], [7], 8

愛媛大 4-9; 5-8

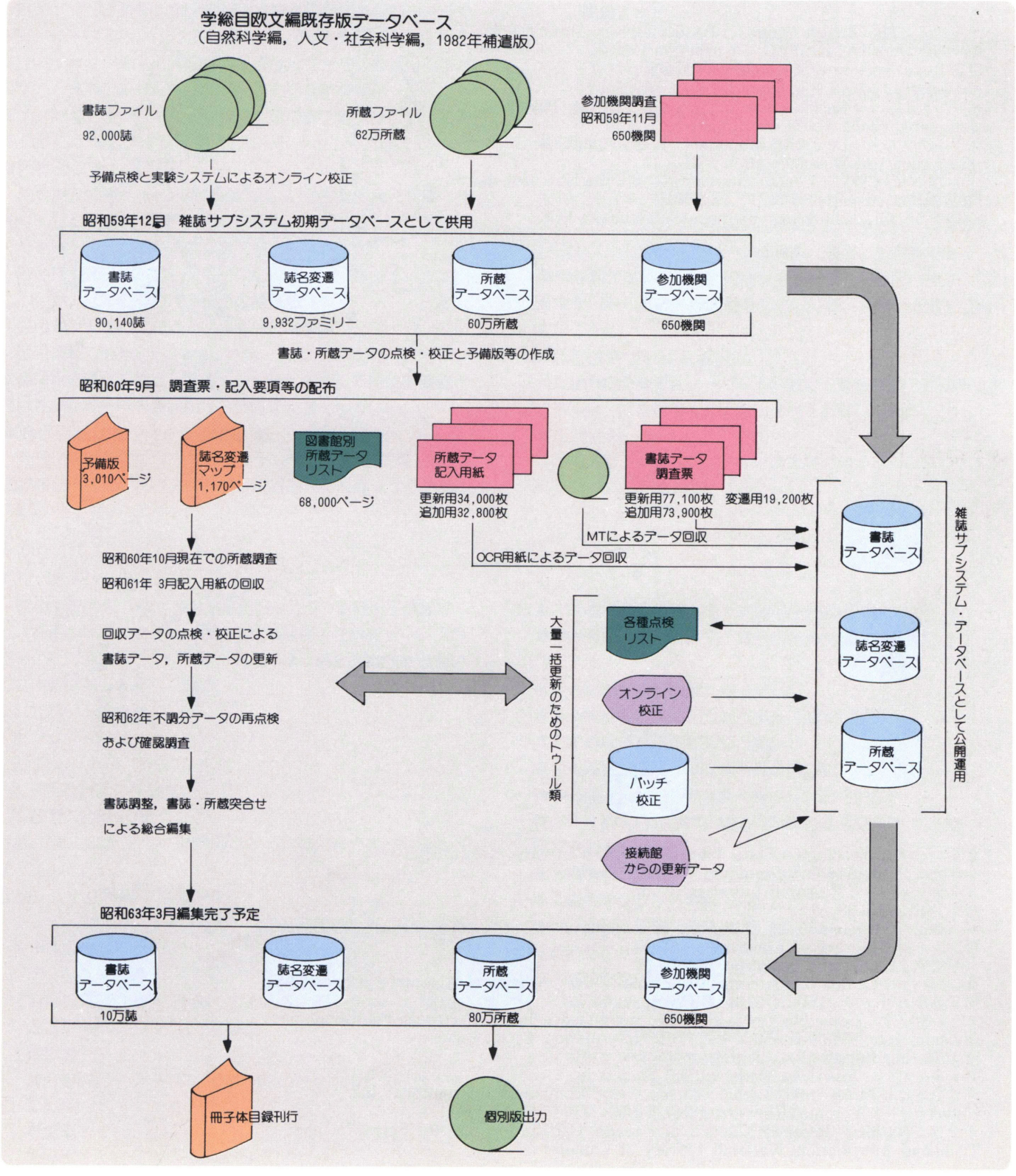
佐大 4-9; 5-8

注) 誌名番号は、雑誌サブシステムの書誌レコードIDに対応する。また、所蔵巻表示は、各参加機関における文献複写等のサービス窓口に対応する全館室の所蔵データをまとめて示してある。

13. 学術雑誌総合目録欧文編新版データベースの編集過程

欧文編新版データベースの編集は、①編集者側における既存データベースの調査・点検に基く「予備版」の編集、②参加図書館での所蔵の点検による所蔵データおよび追加・修正書誌データの起票、③これらに基く総合編集作業という3段階で行われる。データの内容に立入った調査・点検という編集の実質的部分は、専門編集員の努力に俟つべきものであるため、相当の人員と日数を要する。

●学総目欧文編新版データベース編集の流れ



14.国際協力

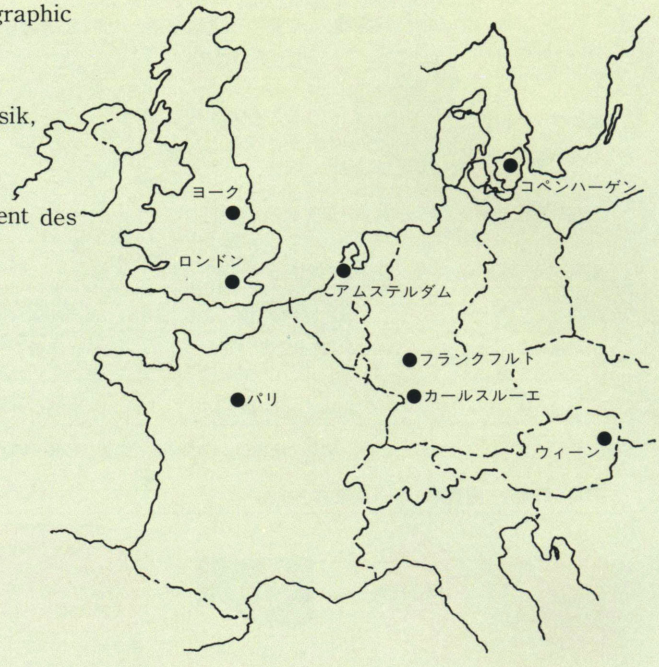
学術情報センターにとって国際関係は極めて重要である。

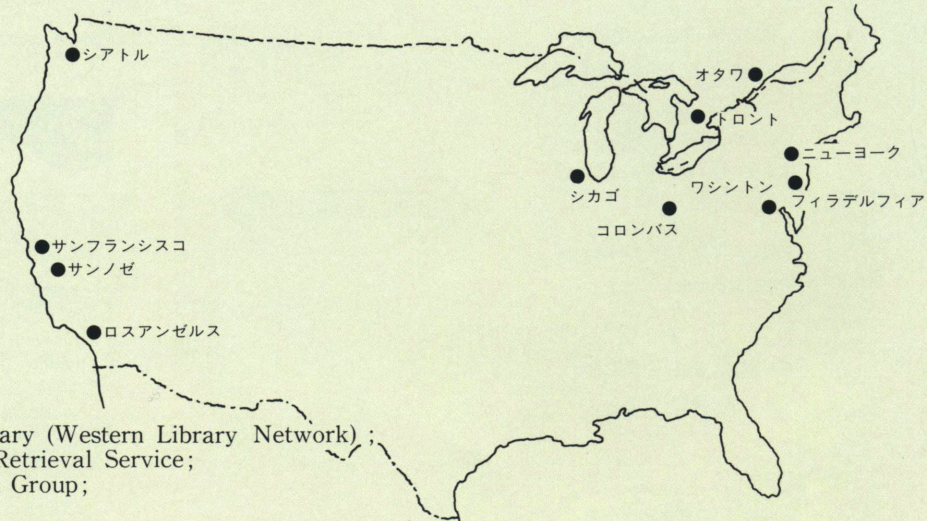
理由の第1は、今日の学術情報の流通が本質的にグローバルなものになりつつあり、それに対する我が国の役割の一端を担うことを通じて、学術情報センターが日本の学術研究の進展に寄与するという明確な任務が存在するからである。

第2に、学術情報システムは我が国個有のものではない。諸外国の学術情報システムと情報を交換しお互いに熟知し合うことが、相互の発展のために不可欠だからである。

以上の理由から学術情報センターは、諸外国の関心の的としてそれに対応する一方、海外学術情報システムの調査を行なってきた。往来の頻繁な主要対象地域・機関を図に示す。

ロンドン：The British Council ; British Library Bibliographic Services Division ; INSPEC ; Distribution Centre, The Royal Society of Chemistry ; LASER ;
ボストンスパ：British Library Lending Division ;
カールスルーエ：Fachinformationszentrum Energie, Physik, Mathmatik Gmbh Karlsruhe (INKA) ;
フランクフルト：Deutsche Bibliothek ; Gesellschaft für information und Dokumentation (GID) ;
パリ：CNRS-CDST ; Centre International d'Enregistrement des Publication en Série (CIEPS/ISDS) ; Bibliothéque nationale ; UNESCO/PGI ;





オリンピア：Washington State Library (Western Library Network) ;
パロアルト：DIALOG Information Retrieval Service ;
スタンフォード：Research Libraries Group ;
サンノゼ：CLASS ;
バークレー：University of California, Berkeley ; ロスアンゼルス：SDC Search Service ;
ワシントン：Library of Congress
ベセスダ：Cambridge Scientific Abstracts
コロンバス：OCLC, Inc.; American Chemical Society Chemical Abstracts Service(CAS);
フィラデルフィア：ISI ; NFAIS ; BIOSIS ; NewsNet ;
ニューヨーク：Columbia University ; EIC/Intelligence Inc. ; Electronic Publishing Division, John Wiley & Sons, Inc,; BRS Information Technologies ; Engineering Information, Inc,(Ei);
アンアーバー：American Mathematical Society ;
トロント：UTLAS International Canada ; Geac Computers International Inc.; University of Toronto ; University of York ;
オタワ：National Research Council of Canada, Canada Institute for Scientific and Technical Information; National Library of Canada ;

15.教育・広報活動

教育・広報プログラム

●セミナー

学術情報システムを構築するための知識・技能の修得を目的とし1)図書館情報システムの管理と要員育成の能力の開発（図書館システム課程）と、2)データベースの形成・運用能力の開発（データベース課程）の2課程で構成する各15週間のコースである。昭和61年度は、12名のセミナー研修員を受け入れている。本セミナーは、昭和47年6月から実施してきた図書館情報学セミナー、それに続く昭和58年10月からの文献情報センター・セミナーを引き継いだもので、開設以来の修了者総数は107名でその多くが現在、大学図書館界のリーダーとして活躍中である。

●目録システム講習会

目録所在情報サービスの開始に伴い、これを円滑に利用・運用するために実施するもので、内容は、

1)目録システムの基本的な考え方
2)目録システム・データベースの構造
3)目録システムにおける検索の操作法
4)目録システムにおける目録登録の操作法
5)実習等である。

受講対象者は、原則として本センターと接続している図書館または接続手続き中の図書館等の業務担当者としている。

●総合目録データベース実務研修

目録所在情報データベースへのデータ入力(目録業務)のための各接続図書館における中核的、指導的人材を養成するためのものである。昭和61年度は、8週間コースを2回実施予定で、24名の研修員を受け入れている。研修内容は、

1)目録所在情報システム利用のために必要な知識を授ける「講義」
2)目録システム講習方法の設計、演習及び研修員所属図書館に固有の問題を検討する「演習」
3)目録システムのデータ作成に関する講習、実習を行う「目録実習」等である。

●タスクフォース(特別研修員)

本センターの開発業務に従事しつつ、研修を行うものである。昭和61年度は、図書館及び大型計算機センターから数名ずつがタスクフォースとなっている。具体的担当業務は、図書館系は目録システムやデータベースの構築、運用、拡張等であり、大型計算機センター系は学術情報ネットワーク敷設に伴う大型計算機センターとの共同開発のための知識、技術の修得を目指すものである。

●情報検索サービス講習会

大学等の研究者等ユーザーを対象に、情報検索の方法等に関する知識・技術習得のための講習会を計画している。

●広報活動

学術情報センターでは、学術情報等に関するシンポジウムの開催など広報活動も実施する。

刊　行　物

利用の手引

昭和60年9月に「東京大学文献情報センター目録所在情報サービス利用の手引」を刊行した。これは目録所在情報サービスの本格化に対応し、センターへの利用申請手続きを案内するもので、内容は次のとおりである。

1. センターの概要
2. センターのサービスとシステム
3. ネットワーク接続のために
4. 利用のための手続き
5. 各種の利用支援

なお、学術情報センターの発足に伴う記載内容の改訂、増補を現在進めている。

目録システム利用マニュアル

センターではオンライン目録システム利用のためのマニュアルを作成した。

1. データベース編
   目録システムの利用上知っておくべきデータベースの構造と各データ項目についての解説
2. 検索編
   総合目録データベースの検索利用のためのシステム操作法の解説
3. 登録編
   準備中

モノグラフ

●学術雑誌総合目録人文・社会科学欧文編 1980年
●学術雑誌総合目録人文・社会科学欧文編誌名変遷マップ 1981年
●学術雑誌総合目録欧文編 1982年
●学術雑誌総合目録和文編予備版 1983年
●学術雑誌総合目録和文編 1985年
●学術雑誌総合目録欧文編予備版(本編Ⅰ～Ⅱ) 1985年
●学術雑誌総合目録欧文編予備版(別編) 1985年
●学術雑誌総合目録欧文編予備版誌名変遷マップ 1985年

逐次刊行物

●学術情報センターニュース No.1 (1986.6)
●学術情報センター要覧 (1986)
●学術情報センター紀要 1号 刊行予定

(その他の刊行物)

・情報図書館学研究センター・ニュース
・東京大学文献情報センター・ニュース
・東京大学情報図書館学研究センター紀要
・東京大学情報図書館学セミナー研究集録
・東京大学文献情報センター要覧
・東京大学文献情報センター紀要

16. 評議員・運営協議員・職員等

■評　議　員（任期：昭和61年6月1日～昭和63年5月31日）

センターの事業計画その他の管理運営に関する重要事項について所長に助言する。

阿南功一	筑波大学長
稲田献一	大阪大学社会経済研究所教授
岡村総吾	東京電機大学工学部教授
岡本道雄	科学技術会議・議員
木田宏	日本学術振興会・理事長
小山弘志	国文学研究資料館長
清水司	日本私学振興財団・理事長
下山瑛二	東京都立大学長
関本昌秀	慶應義塾大学・常任理事
田中郁三	東京工業大学長
長倉三郎	岡崎国立共同研究機構長
中込雪男	国際電信電話株式会社・常務取締役
西原春夫	早稲田大学長
松田達郎	国立極地研究所長
松永英	国立遺伝学研究所長
松山公一	熊本大学長
森亘	東京大学長
山口開生	日本電信電話株式会社・常務取締役

（五十音順）

■センター・スタッフ

所長　猪瀬博

◆管　理　部

管理部長	伊藤公紘
総務課長	梶史郎
システム・データベース課長	雨森弘行
総務課	
総務係長	渡辺道夫
会計係長	飯塚正人
共同利用係長	佐藤隆雄
研修・資料係長	渡邊正昭
システム・データベース課	
システム管理係長	清水二郎
システム業務係長	中村茂樹
ネットワーク係長	渡辺博
企画係長	石井啓豊
データベース形成係長	牧村正史
目録情報係長	郷端清人

■運営協議員（任期：昭和61年6月1日～昭和63年5月31日）

共同研究計画に関する事項その他のセンターの運営に関する重要事項で、所長が必要と認めるものについて所長の諮問に応じる。

有馬朗人	東京大学理学部長
安達勤	筑波大学学術情報処理センター長
飯高洋一	東京大学大型計算機センター長
大野公男	北海道大学附属図書館長
岡田茂弘	国立歴史民俗博物館考古研究部長
開原成允	東京大学医学部教授（附属病院中央医療情報部長）
佐々木高明	国立民族学博物館第2研究部長
鹽野宏	東京大学法学部長
津田良成	慶應義塾大学文学部教授
手塚晃	埼玉大学政策科学研究科教授
西田龍雄	京都大学附属図書館長
速水融	慶應義塾大学研究・教育情報センター所長
福村晃夫	名古屋大学大型計算センター長
山﨑弘郎	東京大学附属図書館長
山田尚勇	東京大学理学部教授
山本毅雄	図書館情報大学教授

（以上五十音順）

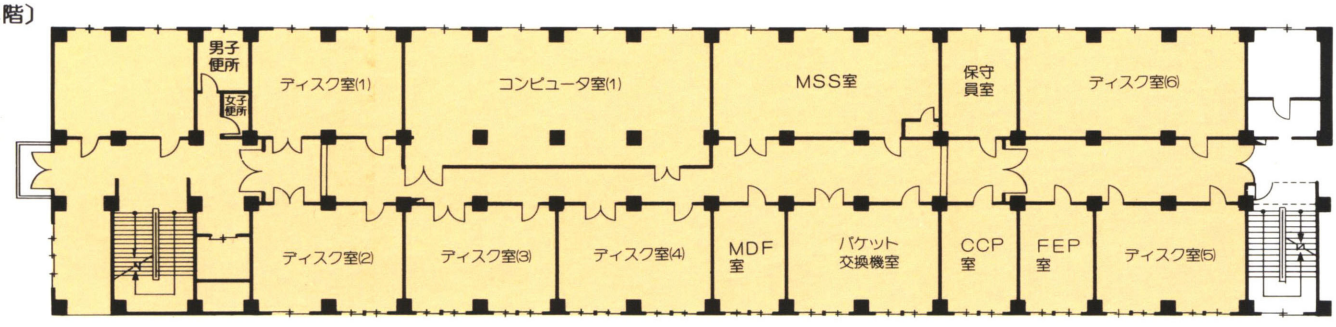
市川惇信	学術情報センター研究開発部長
井上如	学術情報センター学術情報研究系研究主幹
濱田喬	学術情報センター教授
根岸正光	学術情報センター教授

◆研究開発部

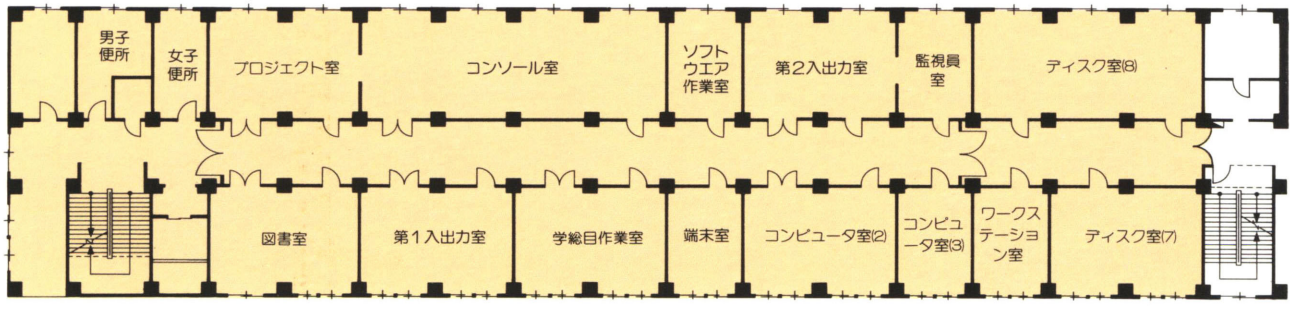
研究開発部長	市川惇信
学術情報研究系	
研究主幹（教授）	井上如
教授	根岸正光
助教授	内藤衛亮
助教授	宮澤彰
助教授	安達淳
助手	大山敬三
システム研究系	
教授	濱田喬
助教授	浅野正一郎
助教授	橋爪宏達

17.学術情報センター内配置図

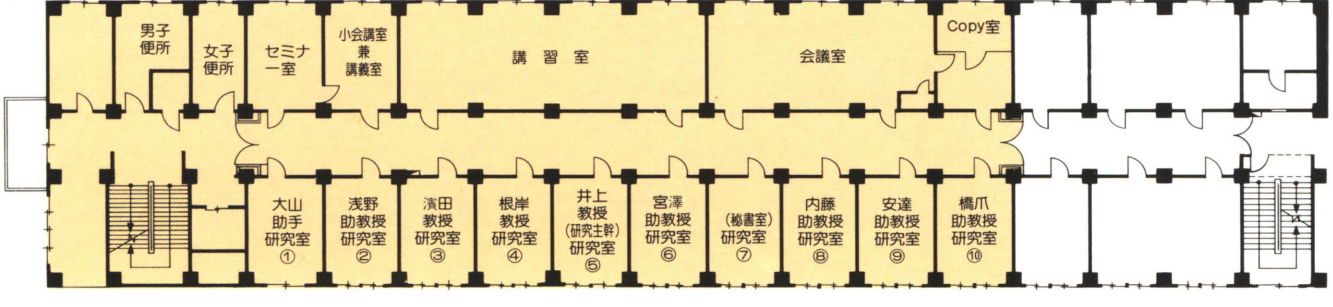
〔4階〕



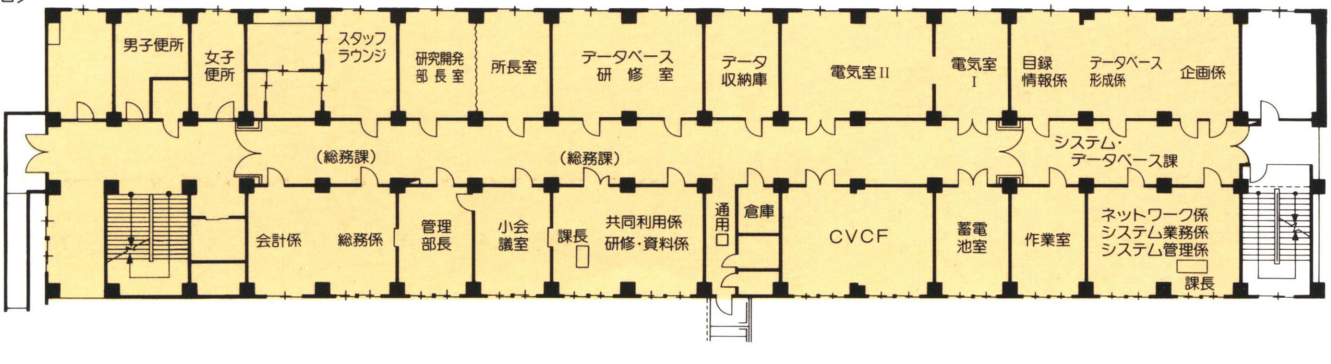
〔3階〕



〔2階〕



〔1階〕



学術情報センター

NATIONAL CENTER FOR SCIENCE INFORMATION SYSTEM

〒112 東京都文京区大塚3-29-1 TEL 03-942-2351(代表)
FAX 03-942-2919
TELEX 27634 NACSIS
3-29-1 OTSUKA, BUNKYO-KU, TOKYO 112 JAPAN